



知性というものは

(前号より)…考えたりしていたのだけど、その夜ぼくたちを(というよりももちろん兄貴を)相手に、「ほんとうにこうやってダベっているのは楽しいですね。」なんて言っているのを楽しそうに話し続けられるその素晴らしい先生を見ながら、ぼくは(すごく生意気みたいだが)ぼくのその考え方が正しいのだということ、なんというかそれこそ目の前が明るくなるような思いで感じとったのだ。そして、それと同時にぼくがしみじみと感じたのは、知性というものは、ただ自分だけではなく他の人たちをものびやかに豊かにするものだというようなことだった。つまりその先生と話していると、このぼくまでがそのちっちゃな精神の翼みたいなのをぼくなり一生懸命広げるとびまわり出すような、そんな生き生きとした歓びがあったんだ。そしてそんな自由でのびやかな快感に酔うと同時に、ぼくはうんと勉強して頑張っていて、いまにこの先生をワァーッと叫ばせてやるぞ、なんてえらく緊張してファイトを燃やしたりしちゃって…。そして(この時のことを詳しく話したらきりがないのでやめるけれど)ぼくは、急に気が大きくなったというか、たとえばもう法学部がどうの何学部がどうのなんてこと、さらには東大がどうの何大がどうのなんてこともメじゃないような気がしてしまった。そしてちょっと飛躍するけれど、言うなればそれだからこそ、ぼくはかえってほんとうに素直な気持ちで、東大法学部へ行こうという気になったのだと思う。そしてまたちょっと飛躍するみたいだが、それと根っここのところではまったく同じ理由で、ぼくは今度の大学なんか行かないという決心もしたのだと

思うわけなんだ。つまり、うまく言えないのだが、たとえば知性というものがほんとうにぼくの考えるような自由なもので、もともと大学とか学部とかには無関係なものであるとすれば、ぼくがたまたま(恐らくはぼくの幸福から)決めていた東大が入試中止になったからといって、大あわてでガタガタするのはおかしいじゃないか。ここであわてて、次にいいのは京大だ一橋だと騒ぐのは、それこそぼくが結局「ああ、あれか」という東大受験生だったことを認めることになるんじゃないか、などといったようなことを考えたのだ。

*

私くらいの年齢になって読むと、ツッコミ所満載な感じではあるのだが、例えば、今年のセンター試験のあとのリサーチや相談会のことを思い出すにつけ、「ここであわてて、次にいいのは京大だ一橋だと騒ぐのは、それこそぼくが結局「ああ、あれか」という東大受験生だったことを認めることになるんじゃないか、などといったようなことを考えたのだ。」と考える薫くんには、(恵まれた環境にある小説の主人公にせよ)それなりの道理があるのではなからうか。

軽やかに飛翔する「知性」を求めるためには、場所は(大学・学部は)関係ない。だからこそ、逆に、自分にふさわしい場所を見つけるべきだとも言えるだろう。

「知性というものは、ただ自分だけではなく他の人たちをものびやかに豊かにする」とある。そんな知性に出会える場を探し続けながら、その過程で、そんな風に他人からも思われるような人間へと成長してほしい。